予習シリーズ 4年㊤第20回

四年国語（月例テスト 第四回）（その一）（2019・7・12～14）

題目	総合

※ 問題用紙は（その一）から（その六）までありますから、注意してください。
※ 答えは、別紙の解答らんに書き入れなさい。

1 ⑩ 次の――線部を漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は、ひらがなで正しく送りなさい。

1 オクマン長者になる。
2 ヒルメシに弁当を持って行く。
3 タイリク横断鉄道に乗る。
4 二点を直線でムスブ。
5 部屋のショウメイを暗くする。
6 ハクブツカンの学芸員になる。
7 あじさいのキセツになる。
8 説得をココロミル。
9 一日八時間ハタラク。
10 キョクドの緊張におそわれる。

2 ⑩ 次の各問いに答えなさい。

問一 ⑤ 次の熟語と反対の意味をもつ言葉を後から選び、それぞれ漢字に直して答えなさい。

1 解散　2 部分　3 過去　4 人工　5 勝利

シゼン　シュウゴウ　ハイボク　ゼンタイ　ミライ

問二 ⑤ 次の外来語の意味を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 リサイクル　2 アドバイス　3 プライド　4 メカニズム　5 データ

ア 誇り・自尊心　イ しくみ・からくり　ウ 助言　エ 資料　オ 再利用

3 ㊵ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「魚付林」という森があります。江戸時代から、海辺に近い森をきってしまうと魚が寄りつかなくなる、という漁師さんの経験から、大切に保護されてきました。しかし明治以降、沿岸域の開発が進むにつれ、急激に減ってしまったのです。

A、失った森を復活させたところ、コンブなどの海藻がふえ、サケをはじめとする魚もたくさんとれるようになった土地があるのです。

襟裳岬で有名な北海道えりも町の百人浜沿岸です。わたしたちの森は海の恋人運動は、そんな※先達がいたことを知らないままスタートしたのですが、あとから知って①尊敬の念をいだいていました。一度いってみたいと思っていたところ、えりも漁業協同組合の平野正男組合長と知り合いになり、訪問できたのです。

平野組合長は、若いときからのコンブ漁師で、その経験から、海底に捨てられた古い鉄製※アンカーにりっぱなコンブが育っていることを知っていました。

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

四年国語（月例テスト第四回）（その二）　（2019・7・12～14）

（　中略　）

えりもは、もともと海がゆたかなところで、昔からアイヌの人々がすんでいました。岬一帯は、カシワ、ハルニレなどの落葉広葉樹の原生林におおわれていました。

明治初期、本州から和人（日本列島にすむ多数派の民族のことです）が移住してきて、人口がふえつづけました。

そして、燃料用に伐採されたり、そのほか家畜の放牧、パッタの大量発生による被害などが重なり、森は傷ついてゆきました。

森が裸になって、強風がふきつけると赤土がまいあがり、沖合十キロまで飛びました。海は土砂で赤くなり、岩礁もうまりだしたのです。魚も寄りつかなくなりました。百人浜は「えりも砂漠」、この地域の人々は「砂食い民」などと呼ばれるようになったのです。

地域の人々の生活を救うため、一九五三年から国家事業として、岬周辺の緑化事業が開始されました。担当官庁は、国有林の管理をする営林署（現・森林管理署）です。

木の苗を植えるには、まず［　B　］。ところが強風で、どんなことをしても草種が飛ばされてしまうのです。あまりの困難さに事業の中止も検討されたといいます。

［　A　］漁民のアイデアで、ゴダと呼ばれる、浜に打ちあげられた雑海藻をかぶせてみると、草がうまく育つことがわかりました。海藻のネバネバが種を飛ばさない役目をし、やがて腐って肥料になったのです。大量のゴダが営林署に買いあげられることになり、漁民も思わぬ副収入を得たのでした。

こうして草を生やすのに、一五年もかかりました。

それから、えりものきびしい環境でも育つ木をやっと見つけて、クロマツの植林が始まりました。しかし植林したばかりの苗木は強風に弱く、それは森づくりの最大の難問でした。

風をふせぐさまざまな苦労の末、事業開始から四十年かかり、②沿岸線に二十数キロにおよぶ丘陵地帯の森が復活したのです。

森の中に入ると、クロマツが曲がりくねって腰をかがめたように育っています。わたしのくらす三陸の沿岸も松林ですが、木はまっすぐです。風の強さを思い知らされると同時に、営林署の苦労がしのばれます。

森ができて土砂が飛ばされなくなると、百人浜のコンブの品質がどんどんよくなりました。泥におおわれたコンブは、五、六等級コンブで最低の品質でしたが、一等コンブが生産されるようになったのです。

青い海がもどってきたことに勇気づけられ、戦前からの古い漁具を引っぱりだし定置網（一定の場所にしかけて魚をとるための網）がはられました。そして息をつめるようにして秋サケを待ちました。

道東のオホーツク沿岸地域からは大漁のニュースが流れていました。しかし百人浜には姿を見せません。

やっぱりダメか……、と思っていたある日、みごとなサケが網の中でおどっているではありませんか。その後、本格的な定置網の建てこみが始まり、サケが大漁に水あげされるようになるのです。

サケが水あげされたというニュースは、緑化事業にあたっていた営林署の職員を喜ばせました。「はげ山復旧事業」としてスタートし、砂が飛ぶのをふせぐのが目的でしたから、③初めは海をゆたかにするという考えはなかったのです。

一九九四年、えりもの森は「飛砂防備林」に加えて、「魚付保安林」という指定になりました。緑化事業が始まって四十二年の歳月が流れていました。

（畠山重篤『鉄は魔法つかい　―命と地球をはぐくむ「鉄」物語』〈小学館〉より）

※先達……先輩。

※アンカー…船のいかり。

問一　㊂　［　A　］に共通してあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　そして　イ　ところが　ウ　たとえば　エ　ところで

ててこい、未来のリーダーたち。四谷大塚

問二 ⑬ ――線①「尊敬の念」について、次の問いに答えなさい。

1 これはどのような気持ちですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 事実にあまりにおどろき言葉もないという気持ち。
イ たいへんかわいそうで気の毒に感じる気持ち。
ウ ひじょうにすぐれている行いや人をうやまう気持ち。
エ あとから後悔してもしきれないという気持ち。

2 だれに対しての「尊敬の念」ですか。次のようにまとめたとき、空らんにあてはまる言葉を文章中から指定された字数でさがし、Ⅰははじめの五字を、Ⅱはそのままぬき出して答えなさい。

・Ⅰ［二十四字］という漁師の経験から、失われた森を復活させた［Ⅱ 二字］。

問三 ④ ［　B　］にあてはまるものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア コンブを育てねばなりませんでした
イ 草を生やさねばなりませんでした
ウ ゴダをかぶせねばなりませんでした
エ 肥料をまかねばなりませんでした

問四 ④ ――線②「沿岸線に二十数キロにおよぶ丘陵地帯の森が復活したのです」とありますが、「復活した」ことによってできるようになったこととして**適切でないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア サケがたくさんとれるようになった。
イ 一等のコンブができるようになった。
ウ クロマツがまっすぐ育つようになった。
エ 砂が海に飛ぶのをふせげるようになった。

問五 ⑯ ――線③「初めは海をゆたかにするという考えはなかった」について、次の問いに答えなさい。

1 ゆたかな海になる前は、海はどのような色でしたか。漢字一字で答えなさい。
2 海が一のような色になったのはどうしてですか。その理由を文章中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。
3 ゆたかな海をあらわす、色を使った表現を文章中から三字でさがし、ぬき出して答えなさい。

4 ㊵ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学六年生の女の子アキと、達弘、ケイト（圭人）、タケやんの四人は一年生の頃から池で釣りをする心の通じ合った仲間である。学年が上がるにつれ、達弘とタケやんは部活がいそがしくなり、池に来ることも少なくなってきたが、アキは四人の生活がいつまでも変わらずに続いてほしいと願っている。

昨日の雨がうそのように、今日はからりと晴れわたった。そのかわり風は少し冷たくなった。池の小径まで来ると、どこからか甘い香りがした。

――この匂い……。

［A］と葉が鳴る。西側の植え込みに、金木犀の木があった。最近は、あちこちでこの花の匂いがする。小径には自転車が二台止まっていた。ケイトの自転車と、もう一台は見覚えのないマウンテンバイクだった。フェンスの向こうに、なぜか達弘がいた。

「部活は？　野球部、練習ないの？」

「今日はさぼり」

――さぼり？　達弘が？

四年国語（月例テスト 第四回）（その四）

（2019・7・12～14）

身軽にフェンスを越えると、達弘はアキのそばに来た。
「これ、達弘の自転車？　新品だよね」
アキはサドルをなでながら、ハンドルをにぎってみた。
「タツ、ガム持ってる？」
いきなりケイトがふり向いた。達弘はポケットからガムを出して投げた。
「最近、①姉ちゃんたち食わないからさ、売るほどたまってるよ」
そう言いながら、アキにもくれた。ブルーベリーのガムだった。
「目がよくなるんだって」
「ほんとに？」
「らしいぜ。どっから聞いてくんのか知らないけど」
「さすが、看護師さんだよね」
達弘もガムを一枚口に入れ、残りをぜんぶアキにくれた。
小さいころから、達弘はポケットにいつもガムを持っている。おかあさんが仕事の帰り、病院の売店で買ってくるからだ。達弘と二人のお姉さんの机の上に、毎日、一つずつガムが置いてあるらしい。
「②オレさ……」
「あ！　タケやんだ」
アキと達弘の前で、自転車は止まった。タケやんは少しあわてているみたいだった。
「やっぱりここにいたんだ。野球部の連中、さがしてたぞ」
達弘は黙っている。
「いいのか？　紅白戦やるんだろ」
③どこか遠慮がちにタケやんがきいた。達弘は黙ったまま首をふる。アキは訳がわからずに、二人の顔を交互に見た。
「どうしたの？　紅白戦やるんなら、行かないと」
「そういうのって、なんか苦手でさ」
アキには意味がわからなかった。だけど、タケやんには通じたみたいだ。
「もう、いいんだ」
そう言って、達弘は視線を落とした。
「ほんと、もういいんだ」
あきらめたような言い方だった。何かがもう、終わってしまったみたいな。
「アキ……、オレ、引っ越すことになったんだ」
達弘は無理に笑おうとした。タケやんを見ると、すぐに視線をはずされた。ケイトはふり向かなかった。でも、知っていたのは背中でわかる。ステージにいた二人の姿が、急に脳裏に浮かんできた。それから、雨の音も。
あまりにも突然だった。突然すぎて言葉が出ない。アキはスニーカーの先で、フェンスを軽く蹴った。
「ほんとに、引っ越すの？」
「ほんとに、引っ越すの」
アキの言葉を、そのまま達弘はくり返した。
「どこに？」
「そんな遠くないよ。ばあちゃんちの横だから。学校は転校になるけど、市内だし」
④転校……、達弘が、転校……。
「いつ？　いつ、引っ越すの？」
「こんどの日曜」
「こんど！　だって、すぐだよ。今日、火曜日で……」
「前からわかってたことなんだ。オレが中学になったら離婚するって、ずっとかあさん、言ってたし。ちょっと早くなっただけ」

もう何年も前から達弘の両親は仲が悪い。そのことはアキたちもよく知っていた。ケンカでもしてくれたほうがまだましだと、達弘は言っていたこともあった。両親は言葉も交わさず目を合わすこともなく、同じ家で暮らしている。

アキは黙っていた。何を言っていいのかわからなかった。

「じゃ、オレ行くな」

達弘は自転車のスタンドをはずした。

「どこ行くの！」

「どこって……べつに、決めてないけど、その辺 B しようかと」

「わたしも行く！」

「へっ！」と、達弘はへんな声を出した。タケやんは驚いたように、アキを見ている。

「⑤じゃあさ、みんなで行こうよ。わたし、自転車取ってくるから」

言い終わらないうちに、アキは走り出していた。

（小森真弓「きのうの少年」〈福音館書店　刊〉より）

問一 ⑥ A・B にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　ぶらぶら　　イ　はらはら　　ウ　さわさわ　　エ　とぼとぼ

問二 ⑧ ――線①「姉ちゃんたち食わないからさ、売るほどたまってるよ」とありますが、姉ちゃんたちが食べないことで売るほどガムがたまるのはなぜですか。文章中の言葉を使って五十字以内で答えなさい。

問三 ⑨ ――線②「オレさ……」について、次の問いに答えなさい。

1　達弘はこのとき何を言おうとしていたのですか。「……」で言おうとした十二字の言葉を文章中からさがし、はじめとおわりの二字をそれぞれぬき出して答えなさい。

2　このときの達弘の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　たとえいやでも、子どもの自分にはどうすることもできないし、受け入れるしかないことだとあきらめて力をなくしている。

イ　自分の両親のことをだれにも言えずにずっとなやんでいたが、やっとみんなに打ち明けられるようになってほっとしている。

ウ　だれも自分の気持ちを理解してくれないことはわかっているので、せめて何も言わずにそっとしておいてほしいと思っている。

エ　ちゃんと話さなければいけないのはわかっているが、言ったらみんなにきらわれてしまうのではないかと不安でたまらない。

問四 ⑩ ――線③「どこか遠慮がちに」について、次の問いに答えなさい。

1　「遠慮がち」とはどういう様子を表していますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　相手の行動に不満を持っている。

イ　相手に何かかくしごとをしている。

ウ　相手の行動を不思議に思っている。

エ　相手の表情・気持ちを気づかっている。

2　「遠慮がち」だったのはどうしてですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　達弘が部活を辞めたがっていることを知っていたから。

イ　達弘が部活に出ない理由をなんとなくわかっていたから。

ウ　達弘をずっと探し回っていたのでつかれてしまったから。

エ　達弘が何を考えているのかさっぱりわからなかったから。

てをこい、未来のリーダーたち。四谷大塚

四年国語（月例テスト 第四回）（その六）

（2019・7・12～14）

問五④ ――線④「転校……、達弘が、転校……」とありますが、このときのアキの気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分だけ知らされていなかったことがわかり、くやしくて悲しい。
イ 予測はしていたことだが、あまりにつらすぎて涙も出てこない。
ウ ここまで自分に何も相談をしてくれなかったことが腹立たしい。
エ 事態がよく飲みこめず、あまりに強いショックを受けている。

問六⑤ ――線⑤「じゃあさ、みんなで行こうよ」とありますが、このときのアキの気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 達弘がいなくなってしまうことがつらくてたまらず、達弘の両親に怒りをぶつけたくなっている。
イ 達弘の転校に動揺しながらも、そのつらさも理解できるので、今はみんなで達弘のそばにいてあげたい。
ウ 最初は達弘にうらぎられたようでつらかったが、今はゆるしてあげようという気持ちになっている。
エ あきらめる前に何か解決する方法が絶対にあるはずだと思い、みんなで相談しようと考えている。